生活復興調査

調査結果報告書

平成13年度

兵　庫　県

はじめに

阪神・淡路大震災から5年を迎えた平成11年2月に、財団法人阪神・淡路大震災記念協会からの委託を受け、「震災後の居住地の変化とくらしの実情に関する調査」を実施した。この調査は、わが国の防災においては、これまで考えられてこなかった生活再建過程を中心にして、巨大な都市災害から立ち直ろうと努力してきた被災地の人々の努力を科学的に調査し、次の災害に備えることを目的としていた。幸いにも、復興に関してこうした科学的な調査を継続的に実施することの重要性を兵庫県が認識し、2年に1度の間隔で被災地の生活復興を定点観測する調査を行なうことになった。

本報告書は、定点観測調査の第1回目として平成13年1月に実施した調査の結果をまとめたものである。前回の調査と同様に、もっとも被害が甚大だった震度7の地域および周辺の都市ガス供給停止区域を調査対象とした。さらに、比較的被害が軽微だった地区での対応と比較が可能となるように、神戸市西区および北区の全域を対象地域に新たに加え、平成13年の1月に調査を行なった。対象地域内から回答者となる成人男女を無作為に抽出しており、本調査の結果が次の大災害に際して、防災担当者の意思決定の根拠となりうることを意図している。

まったく同じ災害は二度とおきることはないだろう。しかし、阪神・淡路大震災からの生活復興に際して被災地の人々の教訓は、次の災害場面でも、また別な形で発現するはずである。とくに、今回の調査では、生活再建には「すまい」「人と人とのつながり」「まち」「そなえ」「こころとからだ」「くらしむき」「行政とのかかわり」という7要素が必要であるという阪神・淡路大震災の被災者自身がまとめた考え方の科学的な検証を試みた。

本調査は、「阪神・淡路震災復興計画後期5か年推進プログラム」のフォローアップの一環として兵庫県からの委託を受け、京都大学防災研究所巨大災害研究センターで企画・実施した。調査設計から最終報告書の作成まで、同志社大学文学部立木茂雄教授、神戸大学文学部岩崎信彦教授には終始ご指導をいただいた。また、京都大学大学院情報学研究科博士後期課程の木村玲欧くん、田村圭子くんには前回の調査に引き続いて、多大な貢献をいただいた。調査の実査はハイパーリサーチ㈱の浦田康幸所長に全面的にご協力いただいた。

この調査は、再度調査に応じることをご快諾いただいた回答者に新たな回答者を加えて、平成15年1月に再び実施する予定である。こうした地道な努力の積み重ねが、今後の復興対策の一助となることを切に願う。

平成14年1月

京都大学防災研究所 教授
林　春男

目　次

はじめに ---------- 1

Ⅰ 調査概要

1．調査目的 ---------- 5
2．調査概要 ---------- 5
3．回収状況及び回答者特性 ---------- 8
4．被害実態 ---------- 12

Ⅱ 調査結果

第１部 平成13年1月時点での復興のようす

生活復興とは何か ---------- 15

第１章 都市の再建 ---------- 21

1．すまいの再建 ---------- 21
1）住居形態の変化 21
2）居住地の移転 23
3）すまいの移動 25
4）すまいの情報ニーズ 30
5）解体に対する意見 35
2．まちの再建 ---------- 36
1）まちの復興イメージ 36
2）まちへの愛着 38

第２章 経済の再建 ---------- 41

1．くらしむきの変化(家計簿調査) ---------- 41
2．震災による仕事への影響 ---------- 46
1）震災後の転退職(転廃業)とその理由 46
2）職業別でみた震災後の転退職(転廃業) 47
3）震災による職場被害と職業･地域との関係 50

第３章 生活の再建 ---------- 56

1．こころとからだの変化 ---------- 56
1）ストレス 56
2）健康習慣 59
2．つながりの変化 ---------- 62
1）支援者 62
2）近所づきあい 69
3）市民性 72
4）家族 77

3．そなえ意識の変化 ---------- 79
1）南海･東南海地震の被害予測 79
2）復旧･復興を優先するもの 83
4．行政とのかかわり ---------- 89
1）市民と行政との新しい関係 89
2）地域を維持するための負担金･労働力の提供 90

第２部 生活復興感
第１章 生活復興感尺度 ---------- 93
第２章 生活復興感の規定因としての生活再建課題 ---------- 96
1．生活再建課題７要素との関連 ---------- 96
1）すまい 96
2）人と人とのつながり 97
3）まち 101
4）そなえ 102
5）こころとからだ 102
6）くらしむき 103
7）行政とのかかわり 104
2．生活復興感を規定する要因モデル ---------- 105
第３章 地域や職業による生活復興感の規定因の違い ---------- 108
1．地域による違い ---------- 108
1）地域による生活復興感の違い 108
2）地域差とさまざまな要因との関連 110
2．職業による違い ---------- 116
1）職業による生活復興感の違い 116
2）職業の違いとさまざまな要因との関連 117

Ⅲ 要旨･提言 ---------- 125

Ⅳ 基礎資料
1．質問文及び単純集計
2．前回調査との比較整合性
3．用語説明